

安全データシート

整理番号【191-12】

制定日 2001/08/28

改訂日 2026/01/15

1. 化学品及び会社情報

化学品

化学品の名称 アセザイム

供給者情報

会社 サラヤ株式会社

住所 大阪府大阪市東住吉区湯里2-2-8

担当部門 営業本部

電話番号 06-6797-2525

緊急時連絡番号 06-6705-1013

推奨用途及び使用上の制限:

推奨用途: 医療用具・器具の浸漬洗浄。機械洗浄用。業務用酵素系浸漬洗浄剤。

使用上の制限: 推奨用途以外の用途に使用しない。

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類:

健康有害性:

急性毒性(吸入:粉じん、ミスト):区分4

皮膚腐食性／刺激性:区分1

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性:区分1

特定標的臓器毒性(単回ばく露):区分1(消化管)

GHSのラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語: 危険

危険有害性情報:

吸入すると有害／重篤な皮ふの薬傷および眼の損傷／消化管の障害

注意書き:

【安全対策】

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

取扱い後は手をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。

屋外または換気の良い場所でだけ使用すること。

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

【応急対策】

飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

皮ふ(または髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。

皮ふを水(またはシャワー)で洗うこと。

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していく
容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

ばく露またはばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。

直ちに医師に連絡すること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

特別な処置が必要である(4. 応急措置を参照すること)。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を自治体のルールに従い廃棄すること。

3.組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別: 混合物

成分:

(括弧内はラベル表示内容)

界面活性剤(界面活性剤(ソホリピット))、アルカリ剤(アルカリ剤(炭酸塩、ケイ酸塩))、

酸素系漂白剤(漂白剤)、蛋白分解酵素(酵素)

化学名または一般名:

メタケイ酸ナトリウム(CAS NO,6834-92-0) 10%未満含有

二酸化ケイ素(CAS NO,7631-86-9) 0. 5%未満含有

4.応急処置

皮膚に付着した場合:

直ちに流水で十分に洗い流す。

眼に入った場合:

こすらずに(コンタクトレンズは外し)すぐ流水で15分以上洗い流す。

飲み込んだ場合:

直ちに多量の水を飲ませる。無理に吐かせないで、速やかに医師に相談する。

5.火災時の措置

適切な消火剤:

泡・粉末・炭酸ガス。

水を用いる場合には、注水が不十分であると、分解が促進され熱を発生し
火勢を強める恐れがあるため、十分な注水を行う。

使ってはならない消火剤:

情報なし

特有の消火方法:

この製品自身は可燃性ではないが、火災時の熱により加熱されると
分解して酸素ガスを発生し、火災を助長することがある。

移動可能な製品は、速やかに火災場所から離れた安全な場所に移す。
消火作業は保護具を着用し、風上から行う。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:

作業時には、保護眼鏡、マスク、ゴム手袋を着用し、接触を避けること。

環境に対する注意事項:

原液の環境への放出は避けること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材:

こぼれたものを元の容器に戻したり、くず入れに捨ててはならない。

大量の水で希釈し、廃棄する。

7.取り扱い及び保管上の注意

取り扱い:

技術的対策:

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項:

①必ず、ゴム手袋、保護メガネ、マスクを着用する。

②開封するとき、粉が飛び出す恐れがある。

本品を移動するときは口部をしっかりと締め、水分、鉄、ゴミが混入しないように
保管する。

③他の洗浄剤や殺菌剤とは混ぜない。

④用途以外に使用しない。

⑤使用後は水で十分にすすぐ。

接触回避:

情報なし

保管

安全な保管条件:

極端に高温または低温、多湿の場所、直射日光の当たる場所には保管しない。

小児や認知症の方の手の届くところに置かない。

倒れたり、こぼれたりすることのないような場所に保管する。

安全な容器包装材料:

専用のプラスチック容器を使用する。

8. ばく露防止措置及び保護措置

許容濃度等: 設定されていない。

設備対策: 情報なし

保護具: 必ず保護メガネ、マスク、保護手袋を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態: 顆粒

色: 白色～微黄色

臭い: 無臭からわずかに原料臭

沸点又は初留点及び沸騰範囲: 情報なし

可燃性: 情報なし

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界: 情報なし

引火点: 情報なし

自然発火点: 情報なし

分解温度: 情報なし

pH: 11未満(0.5%)

動粘性率: 情報なし

蒸気圧: 情報なし

密度及び/又は相対密度: 1.1 (嵩比重)

相対ガス密度: 情報なし

粒子特性: 情報なし

10. 安定性及び反応性

反応性:

単独では、通常の取扱い条件で安定であるが、熱や分解を促進する物質との接触によって分解する。

吸湿や水ぬれによっても分解が誘発、促進される。

分解時は酸素ガス、水(または水蒸気)および熱を発生する。

化学的安定性: 通常の取扱い条件において安定である。

危険有害性反応可能性:

熱がこもると分解が加速され、密閉容器では破裂することがある。

弱い酸化性を有する。

避けるべき条件:高温、多湿、直射日光

混触危険物質:

重金属およびその塩類、還元性物質、酸性物質、酸化されやすい有機物、

紙・布・木材等の可燃物、潮解性物質

危険有害な分解生成物:酸素ガス、熱

11.有害性情報

急性毒性:区分4(吸入すると有害)

皮膚腐食性/刺激性:区分1(重篤な皮ふの薬傷および眼の損傷)

眼に対する重篤な損傷/刺激性:区分1(重篤な眼の損傷)

呼吸器感作性又は皮膚感作性:分類できない

生殖細胞変異原性:分類できない

発がん性:分類できない

生殖毒性:分類できない

特定標的臓器毒性(単回ばく露):区分1(消化管の障害)

特定標的臓器毒性(反復ばく露):分類できない

誤えん有害性:分類できない

12.環境影響情報

生態毒性:情報なし

残留性・分解性:情報なし

生態蓄積性:情報なし

土壤中の移動性:情報なし

オゾン層への有害性:情報なし

ノニルフェノール系非イオン界面活性剤を含め、環境庁が内分泌搅乱物質(いわゆる環境ホルモン)と位置付けた指定物質は一切配合していない。

13.廃棄上の注意

化学品、汚染容器および包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、またはリサイクルに関する情報
「7. 取り扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと

残余廃棄物:大量の水で希釈し、廃棄する。あるいは、廃棄物業者に処理を依頼する。

使用済容器:管轄自治体のルールに従い、処理する。

14.輸送上の注意

「7. 取り扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと

国際規制

国連分類:腐食性物質(クラス8、容器等級III)

国連番号:1759

引火性液体に該当しない。

運搬する場合には、飛散、漏洩、流出、又は浸出を防ぐのに必要な措置を講じなければならない。

直射日光等による加熱を避ける。

可燃性物質との混載は避けるのが好ましい。

15.適用法令

労働安全衛生法(安衛法):

名称等を表示すべき危険物及び有害物 法第57条、施行令第18条

名称等を通知すべき危険物及び有害物 法第57条の2、施行令第18条の2

・硫酸ナトリウム 50～60%(2025年4月1日以降)

・炭酸ナトリウム 15～25%(2025年4月1日以降)

・メタけい酸ナトリウム並びにその五水和物及び九水和物 1～10%(2025年4月1日以降)

名称等を通知すべき危険物及び有害物 法第57条の2、施行令第18条の2

・酸化チタン(IV) 1%未満

・サチライシン 1%未満

皮膚等障害化学物質等 規則第594条の2

・炭酸ナトリウム 15～25%

・メタけい酸ナトリウム並びにその五水和物及び九水和物 1～10%

化学物質管理促進法(PRTR法):該当しない

毒物及び劇物取締法:該当しない

16.その他の情報

参考文献

職場の安全サイト シリカのSDS(2016.3.31改訂版)

職場の安全サイト メタけい酸ナトリウム(2009.3.30改訂版)

NITE-Gmiccs GHS混合物分類判定ラベル／SDS作成支援システム

- ・本SDSはJIS Z 7253:2019に準拠しています。
 - ・この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。
 - ・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。
 - ・注意事項は通常の取り扱いを対象としたものですが、特別な取り扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。
 - ・すべての化学品には未知の有害性があり得るため、取り扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。
-